



Title	保健師の事業実装力向上に関する研究
Author(s)	宮本, 圭子
Citation	大阪大学, 2025, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/103193
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨

氏 名 (宮本 圭子)

論文題名

A study of program implementation capacity building for public health nurses
(保健師の事業実装力向上に関する研究)

論文内容の要旨

複雑化、多様化する公衆衛生上の課題に効率的、効果的に対応するためには、エビデンスに基づいた事業の展開が不可欠である。しかし、公衆衛生に関する実践と新しい知見の間には依然として大きな隔りがある。さらに公衆衛生活動の最前線を担う保健師において、先進優良事例を実装するための人材育成がいまだ進んでいない現状がある。そこで本研究は、保健師における事業実装の実態とその関連要因、さらに事業化能力に関連する要因を検討し、これらの結果から新任期保健師向けのウェブプログラムを開発、効果を検討した。

【研究 1、2】日本の保健師による先進優良事例の横展開の実態とキャリア群別事業実装力の関連要因

全国の都道府県と政令指定都市、中核市の本庁、都道府県保健所に所属する保健師702名へのアンケート調査から、保健師における事業実装の実態とその関連要因、キャリア群別の事業実装力の関連要因を明らかにした。調査内容は、事業実装の経験、学習経験、保健事業実装点検シート (IDAS)、専門性発展力尺度 (PDS)、省察的实践力尺度 (RPS)、研究成果活用力尺度 (RUC) であり、 χ^2 検定、ロジスティック回帰分析、重回帰分析等にて分析した。回答者は、役職あり群が多かった (423名 : 60.3%) もの、事業実装の経験者は43.2%で、保健師による事業実装が進んでいないことが明らかになった。経験の有無にかかわらず90%以上が事業実装に対して困難を感じていたが、80%以上が意欲を持っていた。中でも未経験者で意欲的な者は、意欲がない者に比べ事業実装の重要性を認識していた。また経験者においては、職場の事業実装を推進する風土が実践と関連していた。キャリア群別分析では、新任期群の事業実装力向上にリフレクションの実施、専門的知識・技術の向上、事業実装展開の知識・力量の獲得、重要性理解の向上が重要であることが示唆された。加えて新任期のみ事業実装力との関連がみられなかった研究成果活用力に対しては、エビデンスを収集し活用する方法を含めた学習支援が必要と考えられた。

【研究 3】保健師の事業実装力向上ウェブプログラムの効果：ランダム化比較試験

新任期保健師が基本的な事業実装力を身につけるために、シミュレーションを基にしたウェブプログラムを開発し、その効果を検討した。研修のフレームワークはIDASを基に実装科学と政策移転の枠組みから構築された。プログラムは4つのドメインから構成され、段階的に学べる設計であった。さらに8段階の事業実装プロセスのシミュレーションにおいては、どちらの行動がこの状況設定において望ましいかを問いかけ選択して進むデザインを組みこんだ。

IDAS総合得点、IDAS 5 領域得点、理解度で測定し、結果を介入直前：ベースライン (T1)、介入直後 (T2)、介入終了 4 週後：エンドポイント (T3) の時点にてT検定、共分散分析、U検定、クエードの共分散分析で解析した。さらに各研修終了後に感想等の意見を収集した。197名の参加者をランダムに割り付

けた後、並行群間比較試験を実施した。ITTの原則に従い分析の結果、介入群のIDAS総合得点、IDAS 5 領域得点の結果は、T3時点において対照群に比べ有意に高かった。IDAS総合得点の効果量は中程度 ($d=0.5$) であった。エンドポイントの結果からベースラインの結果を引いた差分については、すべての項目にて介入群が有意に高かった。以上より、介入4週後に介入群の事業実装力の改善が見られたことに加え、参加者の満足度も高く、業務に関する振り返りも多く見られたことから、本プログラムにより事業実装力が向上することが検証された。

【総括】

本研究では、保健師の事業実装における実態とその関連要因、さらにキャリア群別の事業実装力との関連要因から、職場レベルで事業実装を推進する体制整備と学習機会の必要性が明らかになった。これを受け、新任期向けのウェブプログラムを開発し、効果の検討をした結果、介入後4週間後に改善が見られた。今後は、本プログラムの普及と、事業実装における保健師と研究者の協働を推進する必要がある。本研究の意義は、この成果を普及することにより我が国における保健師の事業実装力向上への貢献が期待できることである。

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏 名 (宮 本 圭 子)		
	(職)	氏 名
論文審査担当者	主 査	教授 岡本 玲子
	副 査	教授 小西 かおる
	副 査	教授 藤山 正子

論文審査の結果の要旨

公衆衛生に関する実践と新しい知見の間には依然として大きな隔りがある。公衆衛生活動を担う保健師は、エビデンスに基づく政策・事業の推進を目指しているが、さらなる努力が必要な状況にある。そこで本研究は保健師における事業実装の現状とその関連要因、さらに事業化能力に関連する要因を検討し、これらの結果を基に新任期保健師向けのウェブ研修を開発、効果を検討した。

【研究1】 Best practice transfer by public health nurses in Japan: actual conditions and related factors

目的：保健師における先進優良事例の横展開（以下横展開）の実態とその関連要因を明らかにした。

方法：自記式質問紙調査を用いた横断研究である。研究対象者は全国の都道府県と政令指定都市、中核市の本庁、都道府県保健所に所属する保健師702名である。調査内容は、基本属性、先進優良事例の横展開項目、分析方法は、 χ^2 検定、ロジスティック回帰検定を実施した。

結果：協力施設数 185(施設協力率：55.4%)、回答 702 (回収率：73.4%) であった。回答者は、保健師経験年数は 26 年以上が 51.7%で最も多く、係長級以上 60.3%であった。先進優良事例の横展開の経験者は 43.2%であった。先進優良事例（エビデンス）の入手先は国・自治体 HP(81.2%)、研修講師（59.1%）、論文検索(11.1%)、大学問い合わせ(3.6%)であった。横展開あり群に関する関連要因は、横展開の知識：ホームページ・資料の閲覧（OR：4.23、95%CI：2.53-7.07）。横展開なし・今後横展開の意志あり群は横展開の重要性認識（OR：11.57、95%CI：3.14-42.6）という結果が得られた。以上の結果から、保健師の事業実装は進んでおらず、アカデミックなリソースを利用するにあたり、構造的・意識的な問題が示唆された。また横展開の実施には重要性の認識と情報収集力が必要であると思われる。

結論：重要性の認識と、情報収集力を高める支援が必要である。

【研究2】保健師の事業化・施策化能力の向上に活かす事業実装力の関連要因：都道府県および保健所設置市調査

目的：保健師が事業実装を行うためのアセスメントシート、Implementation degree assessment sheet；以下 IDAS を用いて、キャリア 3 群別(新任期群：5 年以下、役職無群：6 年以上・役職無、役職有群：6 年以上、係長級の者)に実装科学の視点から事業実装力の関連要因を明らかにした。

方法：本研究は研究1の副次的研究である。保健事業実装点検シート(IDAS)、専門性発展力尺度（PDS）、省察的実践力尺度（RPS）、研究成果活用力尺度（RUC）等を測定した。分析は、一元配置分散分析、多重比較、重回帰分析を実施した。

結果：3群ともにIDASと保健師のコンピテンシー得点は関連していた。新任期群のIDAS得点との関連要因はPDS, RPS, 横展開重要性の認識あり($R^2=0.506$)であった。

結論：新任期群は、横展開の重要性認識を持つことが必要である。

【研究3】 Effect of web-based training on public health nurses' program implementation capacity: a randomized controlled trial

目的：新任期保健師が基本的な事業実装力を身に着けるためのウェブプログラムの効果を検討することである。

方法：IDASを主にした枠組みにより、シミュレーションベースのウェブプログラム（約2時間）を開発した。層別置換ブロック法による2群への割付には経験年数（2, 3年目と4, 5年目）所属先（都道府県、政令市又は中核市、市町村）を利用した。評価項目は、IDAS得点、理解度、満足度、自信度、自由意見である。結果を介入直前：ベースライン（T1）、介入直後（T2）、介入終了4週後：エンドポイント（T3）の時点にてT検定、共分散分析、U検定、クエードの共分散分析で解析した。調整変数には経験年数と所属先、ベースライン得点を使用した。

結果：197名の参加者を介入群98名、対照群99名にランダム割付後、並行群間比較試験を実施した。最大解析集団（FAS）（介入群76名, 対照群83名）プロトコール適合集団（PPS）（介入群44名, 対照群60名）を解析した。介入群のIDAS総合得点、IDAS5領域得点の結果はT3時点において対照群に比べ有意に高かった。調整変数を利用した解析について、前述すべての項目にて介入群が有意に高かった。理解度はT2, T3の時点で介入群が対照群より著しく有意な結果が得られた。調整変数を利用した解析においても介入群で有意な結果がみられた。IDASの効果量についてFAS（ $d=0.50$ ）がPPS（ $d=0.48$ ）より高い結果であった。

結論：介入4週後において、介入群の事業実装力の改善が見られた。

【総括】

本研究では、保健師の事業実装における現状とキャリア群別における事業実装力との関連要因の結果から新任期向けのウェブプログラムを開発、効果を検討の結果、介入後4週間後に改善が見られた。今後は、学習支援の一つとして本プログラムの普及と事業実装において実践者と研究者の協働やネットワークづくりが必要であると考えられた。

一連の研究成果を踏まえ論文審査を行った結果、本論文は博士(保健学)の授与に値すると判断した。